中島町中島フジノキ製塩遺跡

――県営ほ場整備事業中島地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書――

１９９７

石川県立埋蔵文化財センター

巻頭写真１　遺跡遠景（北東から）

巻頭写真２　完掘状況（南から）

複数のグリッドにまたがる破片は、均等割りして配分し、1以下は四捨五入した。
単位：片（g）、左が破片数、右（ ）書きが重量。
製塩：製塩土器、土師：土師器・中世土師器、須恵：須恵器、珠洲：珠洲焼、陶磁：陶磁器の略

（参考　出土遺物のグリッド別分布）

例　言

1　本書は石川県鹿島郡中島町中島地内に所在する、中島フジノキ製塩遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2　中島フジノキ製塩遺跡の発掘調査は、石川県農林水産部耕地整備課（平成６年度から農地整備課）所管の県営ほ場整備事業中島地区中島工区の施工に起因するもので、同課の依頼により石川県立埋蔵文化財センターが実施した。

3　発掘調査は米沢義光（当時埋蔵文化財センター主事・現金沢伏見高校教諭）が担当し、期間は昭和59年５月15日から６月27日まで、面積は約250m²である。

4　発掘調査及び出土遺物整理、報告書刊行に係る費用は、一部文化庁から補助金を得た他は耕地整備課（農地整備課）が負担した。

5　発掘調査から出土遺物整理、報告書刊行に至るまでには下記の関係機関、個人の協力を得た。

石川県農林水産部耕地整備課（農地整備課）、石川県七尾土地改良事務所（平成８年度から七尾農林総合事務所）、社団法人石川県埋蔵文化財保存協会、中島町教育委員会、小島和夫、下村好美、戸澗幹夫、山本純也

6　出土遺物の整理作業については、平成８年度に社団法人石川県埋蔵文化財保存協会に委託して行った。

7　本書の作成は米沢と協議の上、安　英樹（埋蔵文化財センター主事）が主に行った。

8　本文・挿図・写真についての凡例は下記の通りである。

(1)方位は座標北を指す。(2)水平基準は海抜高で示している。(3)挿図の縮尺は図内に示した。(4)図版の出土遺物の縮尺は不同である。(5)出土遺物番号は挿図・写真・観察表で共通している。(6)挿図の遺物実測図で、須恵器、珠洲焼については断面を黒塗りとした。

9　発掘調査で得られた記録資料、出土遺物は石川県立埋蔵文化財センターで保管している。

目　次

報告書抄録

Ⅰ　位置と環境 …… 1

Ⅱ　調査に至る経緯 …… 3

Ⅲ　調査の概要 …… 4

Ⅳ　まとめ …… 14

挿図一覧

第1図　遺跡の位置
第2図　調査区の位置
第3図　調査区全体図
第4図　調査区土層断面図
第5図　遺構実測図
第6図　遺物実測図1
第7図　遺物実測図2
第8図　遺物実測図3

表一覧

第1表　遺跡一覧表
第2表　土器・陶磁器・土製品観察表
第3表　石・木・鉄製遺物観察表
第4表　銭貨観察表

写真一覧

巻頭写真1　遺跡遠景（北東から）
巻頭写真2　完掘状況（南から）
写真1　調査前（南から）
写真2　完掘状況（南から）
写真3　完掘状況（北西から）
写真4　完掘状況（東から）
写真5　完掘状況（西から）
写真6　溝状遺構（南から）
写真7　掘立柱建物（西から）
写真8　井戸（北から）
写真9　表土除去
写真10　作業風景1
写真11　作業風景2
写真12　遺物1
写真13　遺物2
写真14　遺物3

報告書抄録

ふりがな	なかじままちなかじまふじのきせいえんいせき
書名	中島町中島フジノキ製塩遺跡
副書名	県営ほ場整備事業中島地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	安　英樹、米沢義光
編集機関	石川県立埋蔵文化財センター
所在地	石川県金沢市米泉町4丁目133番地　TEL.0762－43－7692
発行年月日	平成9年3月28日

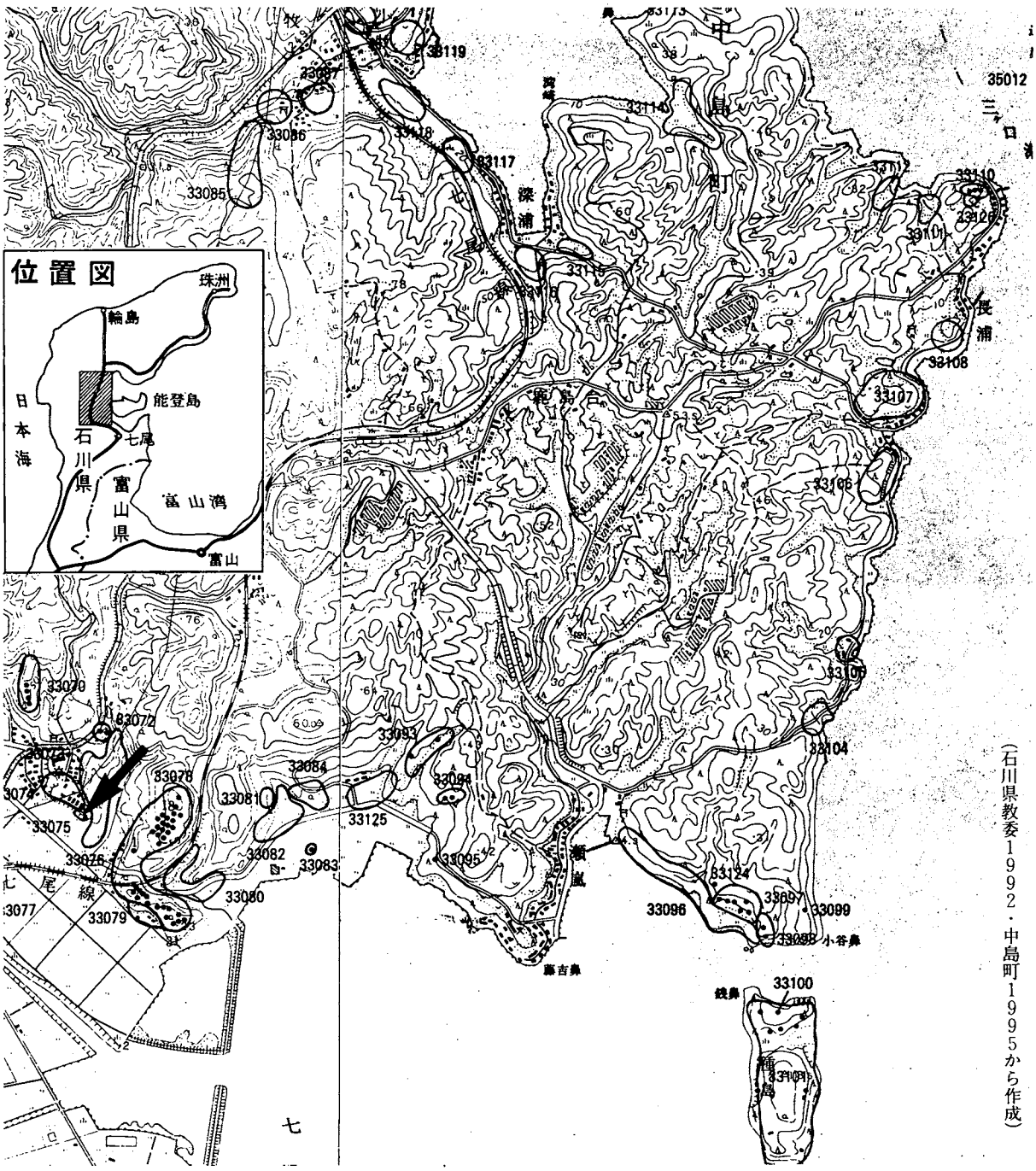
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
中島フジノキ製塩遺跡	石川県鹿島郡中島町中島地内	17403	075	37度6分41秒	136度51分52秒	19840515～19840627	250	ほ場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中島フジノキ製塩遺跡	製塩遺跡・集落・散布地	縄文～中世	掘立柱建物1棟 井戸1基 溝1条	縄文土器、製塩土器、土師器、須恵器、中世土師器、陶磁器、石器、石製品、木製品、鉄製品、銭貨	古墳時代・古代には土器製塩が行われており特に8～9世紀代が盛行期。製塩土器は後出的な尖底タイプを数多く含む好資料である。

Ⅰ　位置と環境

中島フジノキ製塩遺跡（県遺跡番号33075）は石川県鹿島郡中島町中島の通称フジノキと称する畑地（海抜約１～３ｍ）に立地している。その東側から北側背後にかけては谷が入り込んでいるが、当時は、この谷にも海が入り込み、本遺跡はこの旧汀線際に立地していたものと推定される。

周辺の遺跡分布を見ると、本遺跡背後の台地上には縄文時代の桜林遺跡（33074）や、古墳時代の中島桜林古墳（33073）が、東側丘陵尾根上には山岸古墳群（33078）が存在する。また製塩遺跡では、山岸製塩遺跡（33079・倒盃タイプ）や木ノ浦製塩遺跡（33081・尖底タイプ）が存在する。



（石川県教委1992・中島町1995から作成）

第１図　遺跡の位置（詳細図Ｓ＝1/25,000）

第１表　遺跡一覧表

遺跡番号	枝番	名　称	所在地	所在地通称	種別	現　状	立　地	時　代	出土品	備　考
33070		中島岡古墳群	中島町中島	岩崎	古墳	山林	丘陵斜面	古墳		円墳４基。内１基は径10m、高さ1.5m、横穴式石室。保存状態良好。
33071		浜田遺跡	中島町浜田		屋敷跡	山林	丘陵	不詳		
33072		桜林横穴群	中島町中島	サクラバヤシ	横穴墓	山林	丘陵端	古墳		２基確認。
33073		中島桜林古墳	中島町中島	サクラバヤシ	古墳	工場敷地	台地	古墳		円墳（径20m）、横穴式石室。昭和初期盗掘される。1969年、工場建設で破壊。
33074		桜林遺跡	中島町中島	サクラバヤシ	散布地	宅地	丘陵	縄文	土器、石斧他	1974年、宅地造成工事中に発見。一部発掘調査。
33075		中島フジノキ製塩遺跡	中島町中島	フジノキ	散布地	田	平地	縄文・古墳～中世	縄文土器（後期）、石器、土師器、須恵器、製塩土器（尖底）、珠洲焼、白磁、青磁	1984年、県埋文センター発掘調査。
33076		中島フジノキ遺跡	中島町中島		散布地	田・山林	平地・丘陵	縄文・古墳～中世	縄文土器（前期～晩期）、石器、人骨、製塩土器（尖底、大形倒盃）、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼、白磁、青磁	
33077		熊木川左岸遺跡	中島町中島		平地	田	平地	弥生	土器（中期）	
33078		中島山岸古墳群	中島町中島	ヤマンタン	古墳群	山林	丘陵端	古墳		
	1	中島山岸１号墳（ハリ塚古墳）	中島町中島	ヤマンタン	古墳	山林	丘陵斜面	古墳	土師器、須恵器、鉄先1、鏃1、直刀片4、金環2、刀子5、切子玉5、管玉10、ガラス勾玉5	墳丘削平、円墳。（径8m、高0.8m）横穴石室の石材集積。
	18	中島山岸18号墳	中島町中島	ヤマンタン	古墳	山林	丘陵斜面	古墳		円墳（径15m、高２m）、群中最大の規模、横穴式石室天井部露出。
	31	中島山岸31号墳	中島町中島	シモ	古墳	山林	丘陵	古墳	金銅製鞘止具、鍔付直刀1、直刀7、刀子8、鉄鏃13、方形鉄板1、ガラス小玉８、緑色凝灰岩小玉186、朱、人骨片、須恵器（蓋杯、高杯、平瓶、壺、甕、提瓶各1）	円墳（径14m、高3m）、横穴式石室（玄室長7m、巾1.5m、高1.3m）。1990年、調査団発掘調査。
33079		山岸製塩遺跡	中島町中島		散布地	山林・田・畑	平地	不詳	製塩土器	山岸31号墳墳丘まで包含層広がる。
33080		木ノ浦オオツボ遺跡	中島町木ノ浦		散布地	田	平地	縄文・中世	縄文土器（中・後期）、珠洲焼	
33081		木ノ浦製塩遺跡	中島町木ノ浦		散布地	田	平地	古墳～中世	製塩土器（尖底）、須恵器、珠洲焼、石器	
33082		木ノ浦Ａ遺跡	中島町木ノ浦		散布地	田	平地	縄文・中世	縄文土器（後・晩期）、土師器、須恵器、珠洲焼、製塩土器（尖底）	
33083		木ノ浦中世塚	中島町木ノ浦		塚	田	平地	中世	五輪塔	
33084		瀬嵐木の浦Ａ横穴群	中島町瀬嵐	木の浦	横穴墓	山林	台地麓	古墳		開口。横穴墓９基確認
33085		小牧の砦跡	中島町小牧		城跡	山林	丘陵	中世		
33086		小牧観音山遺跡	中島町小牧		散布地	宅地・社地	丘陵麓	縄文	磨製石斧	
33087		小牧大杉谷内遺跡	中島町小牧		散布地	田	平地	縄文	土器（前期）、磨製石斧、石鏃、スクレイパー	1983年、町教委発掘調査。
33088		外遺跡	中島町外		集落跡	田	丘陵	古墳・中世	土師器、須恵器、珠洲焼	1979，80年、ほ場整備で町教委発掘調査。
33089		外古寺院跡	中島町外		寺院跡	山林	丘陵	不詳		土器
33090		旧村境　盛土遺構	中島町中島		土塁	山林	丘陵上	不詳		
33091		別所遺跡	中島町別所		散布地	社地・山林	丘陵斜面	縄文	石斧１個	現況不詳
33092		浜田中世墓	中島町浜田		墓地	山林	丘陵斜面	中世	珠洲焼	
33093		瀬嵐木の浦Ｂ横穴群	中島町瀬嵐	木の浦	横穴墓	山林	台地裾	古墳		
33094		瀬嵐木の浦東谷古墳群	中島町瀬嵐	木の浦	古墳	山林	丘陵中腹	古墳		円墳（横穴式石室）２基
33095		瀬嵐城が崎古墳	中島町瀬嵐		古墳	原野	丘陵端	古墳		2m×2m、厚0.3mの一枚石露出。石室天井石か
33096		瀬嵐コババ遺跡	中島町瀬嵐		散布地	山林	丘陵端・海岸	奈良～平安	製塩土器	
33097		瀬嵐明神鼻古墳群	中島町瀬嵐	明神鼻	古墳	山林	台地端	古墳		円墳９基以上
33098		瀬嵐小谷鼻古墳群	中島町瀬嵐		古墳	山林	台地端	古墳		円墳２基
33099		瀬嵐笹島古墳	中島町瀬嵐		古墳	山林	丘陵斜面	古墳		円墳（径15m,高1.5m）、横穴式石室石材露出散乱。
33100		種が島経塚	中島町瀬嵐	種が島	経塚	山林	台地斜面	不詳	一字一石経	
33101		瀬嵐種が島古墳群	中島町瀬嵐		古墳	山林	台地上	古墳	円墳９基以上	
33102		机島１号墳	中島町瀬嵐	机島	古墳	山林	台地上	古墳		前方後方墳（全長18m）
33103		机島遺跡	中島町瀬嵐	机島	散布地	山林	台地・海岸	中世	土師質土器	
33104		鰯浦Ａ遺跡	中島町鰯浦		散布地	田	平地	古墳	製塩土器	
33105		鰯浦Ｂ遺跡	中島町鰯浦		散布地	田・宅地	平地	縄文・古墳	縄文土器、製塩土器	
33106		長浦遺跡	中島町長浦		墳墓	山林	台地上	中世		
33107		長浦縄文Ａ遺跡	中島町長浦		散布地	畑	台地上	縄文	土器	
33108		長浦縄文Ｂ遺跡	中島町長浦		散布地	畑・山林	台地	縄文	土器	
33109		猿島遺跡	中島町長浦	猿島	散布地	海岸	平地	縄文	土器（中期）	
33110		長浦茂崎古墳群	中島町長浦		古墳	山林	丘陵	古墳		円墳状隆起３基
33111		長浦製塩Ａ遺跡	中島町長浦		散布地	田・山林	海岸	不詳	製塩土器	
33112		長浦製塩Ｂ遺跡	中島町長浦		散布地	田・山林	海岸	不詳	製塩土器	
33113		長浦ヨノ木鼻遺跡	中島町長浦	ヨノ木鼻	散布地	山林	海岸	中世	珠洲焼	
33114		深浦ミミウラ遺跡	中島町深浦	ミミウラ	散布地	田	平地	縄文・古墳	縄文土器、製塩土器	
33115		深浦ヤチノカワ遺跡	中島町深浦	ヤチノワカ	散布地	田	平地	古墳	製塩土器、須恵器	
33116		深浦ジケダ遺跡	中島町深浦	ジケダ	散布地	田	平地	古墳・中世	製塩土器、須恵器、土師器、珠洲焼	
33117		深浦Ａ遺跡	中島町深浦		散布地	畑・山林	丘陵	縄文	剥片	
33118		小牧タドラ遺跡	中島町小牧		散布地	田	平地	縄文・古墳・中世	縄文土器、剥片、製塩土器、珠洲焼	
33119		小牧朱田遺跡	中島町小牧		散布地	畑	台地	縄文	磨製石斧	単独出土
33120		小牧Ａ遺跡	中島町小牧		散布地	田・道路	台地	縄文	縄文土器片（後期）	小牧台国民宿舎取り付け道路建設により一部損壊
33121		外製塩遺跡	中島町外		散布地	鉄道敷	台地・海岸	奈良	製塩土器	
33122		外縄文遺跡	中島町外		集落跡	田	平地	縄文	土器（中期）	
33123		田岸遺跡	中島町外		散布地	畑	丘陵端	縄文	打製石斧、磨製石斧、石錐、石鏃、土器（中期）	田岸部落の背後
33124		瀬嵐宮の浜古墳	中島町瀬嵐		古墳	山林	台地裾	古墳		横穴式石室。天井石３枚露出
33125		木の浦Ｂ遺跡	中島町木ノ浦		散布地	田・宅地	平地	縄文～中世	縄文土器、中世陶器	
33126		長浦茂崎遺跡	中島町茂崎		墓跡	畑	丘陵	中世	板碑、五輪塔、方形塚	

Ⅱ　調査に至る経緯

本遺跡の調査は、昭和56年度より開始されている県営ほ場整備事業中島地区中島工区施工に伴う緊急発掘調査である。昭和57年度施工区の瀬嵐第３工区からは、木ノ浦製塩遺跡が事前の分布調査により発見され、県七尾土地改良事務所との協議の結果、製塩炉跡等が遺存する山裾部分は地区除外し、包含層の残る周辺部も、ほ場区画を一部変更し盛土保存することとなった。

さて、本遺跡は、昭和59年度中島工区施工に伴い、昭和59年３月26日から27日にかけて実施された分布調査により発見されたものである。同遺跡の取り扱いについては、協議の結果、事前に発掘調査を実施することとなり、昭和59年５月15日から６月27日にかけて、約250m²について調査を行った。

第２図　調査区の位置（S=1/4,000）

Ⅲ　調査の概要

調査方法

グリッド法による全面発掘調査。グリッドは、傾斜に沿う方向が算用数字（１～８）、その直交方向がアルファベット大文字（A～E）の任意の座標を用いた３ｍ方眼を基本とし、個々のグリッド名はその北隅の座標をわりあてた。ただし、調査区の壁際については不均等であり、この限りではない。方位との対応は、１から８を結ぶラインがN－40°－Wを指している。

基本層序

上位から耕土、床土、灰色粘質土の間層、遺物包含層（第４図層12)、地山となる。地山は丘陵部が岩盤で、標高が下がり低地に接する部分ではその上位に砂礫が堆積するようである。

検出遺構

C３区からD５区にかけての掘立柱建物１棟、E３区の井戸１基（第５図)、A８区からC７・８区にかけての溝状遺構１条である。掘立柱建物と溝状遺構は岩盤上、井戸は砂礫層（旧海岸汀線を整地した可能性あり）上で検出された。製塩炉跡は建物等の遺構が作られたおりに削平された可能性が高く、調査区内では焼石が検出されたのみである。掘立柱建物の規模は小さく、総柱２間×２間である。井戸は横板組みで、覆土は掘りかた部が黒灰色粘質土で、井戸枠内部が黒色粘質土である。掘り方覆土は礫を多量に含み、特に板の付近では倒れないように置いて裏込めを行ったものと思われる。

出土遺物

製塩土器、土師器、須恵器、中世土師器、陶磁器、漆器、土製品、石製品、木製品、鉄製品、銭貨、骨、種子の他、縄文時代の土器、石器も出土しており、図化品を中心にして紹介する。

製塩土器（第６図１～第７図11）　製塩土器の常で、細かく砕けた小破片が大半なため、全形を知りうる資料は皆無である。ただし、特徴的な底部形態は、当地域の古墳時代から平安時代にかけて変遷する各種の製塩土器に対比できる。底部形態は台脚が付くもの（倒盃タイプ)、棒状脚が付くもの（尖底タイプ)、平坦なもの（平底タイプ）がある。尖底タイプは、細くて長い棒状脚のA、太くて短い漏斗状脚のBに大別され、胴部が漏斗状か筒状かの器形の差にほぼ対応するようである。尖底Bはさらに、やや長めで棒状に近いB１、端を自然に処理するB２、やや短めで端を丸く処理するB３、同様に端を乳頭状に処理するB４に細別される。判別可能な土器を計量したところ、倒盃１点、尖底A２点、尖底B125点、平底１点となり、尖底Bタイプが圧倒的に多かった。B１～４の点数については、分類がやや曖昧なため、数えられなかった。以下、個々の製塩土器について記す。

第６図１は倒盃タイプ。２・３は外面にハケ、内面に継ぎ目が見られ、２は比較的厚手で、３は薄手である。外面丁寧、内面粗雑な調整は、煎傲用とされる製塩土器一般と逆転しており、中島町ヤトン谷内遺跡に例があるような筒状の器形か、あるいは支脚の類であろう。４～６は脚を欠損するが、尖底タイプで、器形を考えるとおそらくBの脚が付く。４のようにやや丸みを持って胴部へ立ち上がるものと、５・６のように間に明確な段や稜を持つものに分かれる。以下はすべて尖底タイプである。７・８は尖底A、胎土中の砂礫は全般に少なめに感じられる。９～24は尖底B１。底部内面において成形時のしぼり痕は９～12・15・23で、孔は16・24で、フラットな面は15・17・18・19などで確認された。18は他と胎土・質感とも異なっており、北加賀で見られるような搬入品の可能性がある。25～43は尖底B２。底部内面のしぼり痕は26・28～30・33・35・36で、孔は27で、フラットな面は27・31・33・37・40・42などで確認された。35はほぼ脚部のみで、継ぎ目で剥離したようである。第７図

1～7は尖底B3。底部内面のしぼり痕は1～3で、フラットな面は6で確認された。8～11は尖底B4。10・11は外面で脚の縁が沈線状にえぐり取られている。11は以上の製塩土器中でもっとも短い脚と言えるものである。11に限らず、尖底Bの脚部については、尖底Aのように棒状脚の本来的な機能を有していたかどうか疑問である。平底タイプについては特に少破片であり、図化できなかった。

製塩土器の胎土は裸眼で観察する限り、粒径1㎜前後の砂礫を多く含み、識別しやすいこともあるが石英・長石が目立つように感じられる。その他では海綿骨片と焼土が含まれるものがきわめて多い。この他、金属光沢を発する鉱物もよく見られるが、結晶形を有する自形の石英は第6図5・41・第7図1など、雲母は第6図18などで、大半は他形の石英と思われる。概ね自形の石英は安山岩質岩起源、他形の石英や雲母は花崗岩質岩起源と言え、安山岩帯が広く分布する中能登において、花崗岩帯を含む眉丈山系に近接する当地域の地勢をよく示している様相と評価したい。

以上の製塩土器には一括性を検討できる資料がないので、各タイプを既往の土器編年観で位置付けると、倒盃タイプは古墳時代、尖底Aが7世紀代、尖底Bが8世紀から9世紀、平底タイプが9世紀から10世紀と、広い時期にわたる。尖底Bが群を抜いた量比から考えると中心になる時期は8～9世紀であろう。尖底B1～4の分類は曖昧であるが、平底タイプを強く意識した第6図5・6のような器形、内面がフラットで底が大きく広がる器形については、9世紀代に降るものが多く、出土した平底タイプや土師器・須恵器に近い時期となろう。下限は能都町真脇遺跡、中島町ヤトン谷内遺跡での土師器・須恵器との共伴例から、9世紀後半から10世紀前半に一応は求めておきたい。

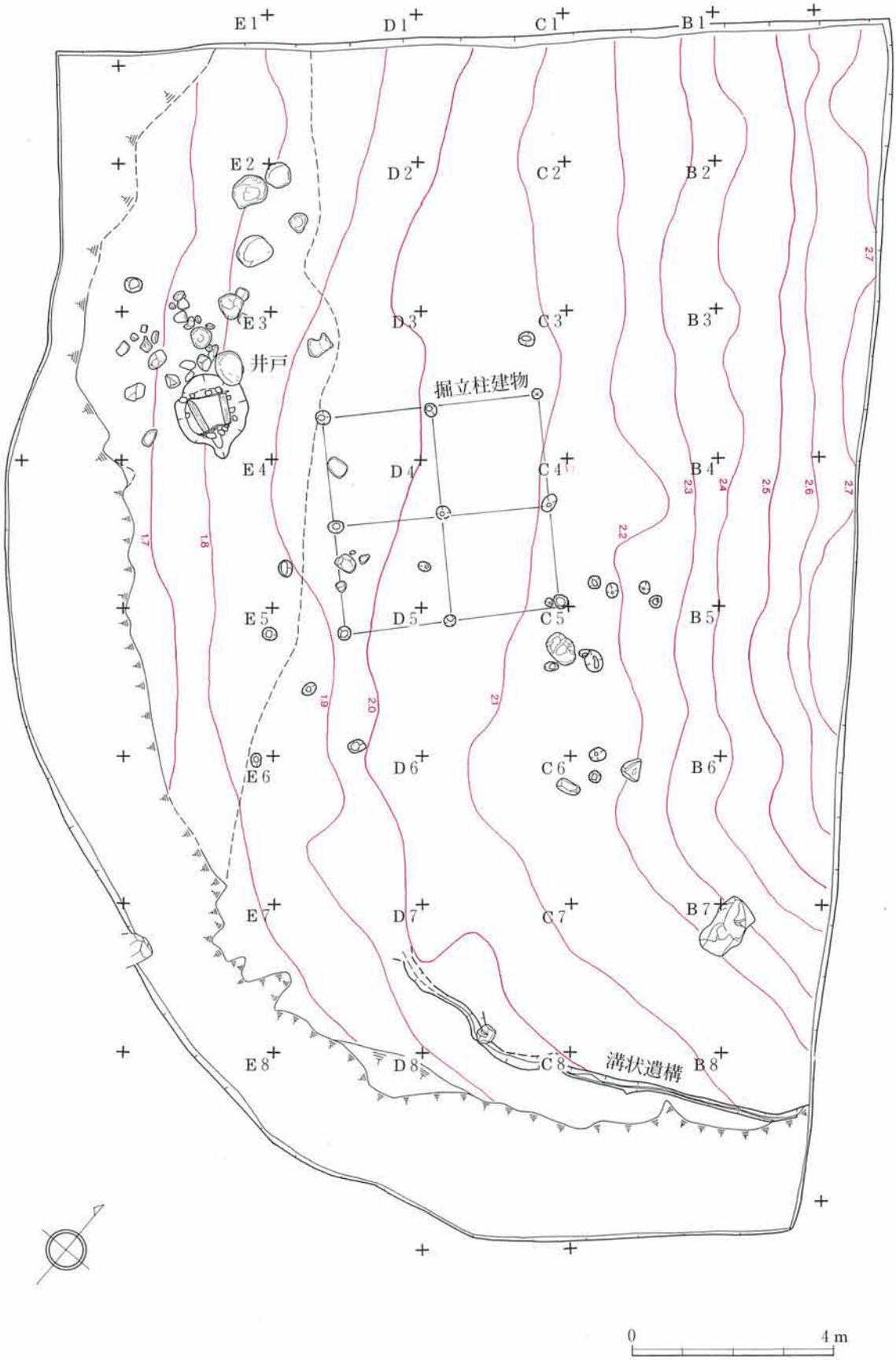
土師器・須恵器（第7図12～14）　12は土師器で、鍋か。13・14は須恵器。13は無台杯で、胎土は軽量な粘土に細砂を含む。14は有台杯で、胎土は緻密な粘土に角張った大粒の石英を含む。12～14の時期は概ね9世紀前半を中心とする。須恵器の産地は、胎土から第2表の通り想定した。

中世土師器（第7図15～26）　すべて非ロクロ成形の中世土師器。15～24は、大きく外傾して開く口縁部に強いヨコナデを加えてさらに反らせた、いわゆる京都系の皿である。端部の処理や、器壁の厚さ、胎土にはかなりバラエティーがある。サイズ的には、15のような大皿から20のような小皿まで見られるが、その間は細別が難しい。25は口縁が直立し身が深い器形、26は口縁が短く外傾する器形である。26は油煙痕を覆って漆状の被膜が見られる。15～24は概ね15世紀の後半、25・26はより先行する時期であろう。なお、中世土師器の油煙痕については、図化品の約半数で確認されている。

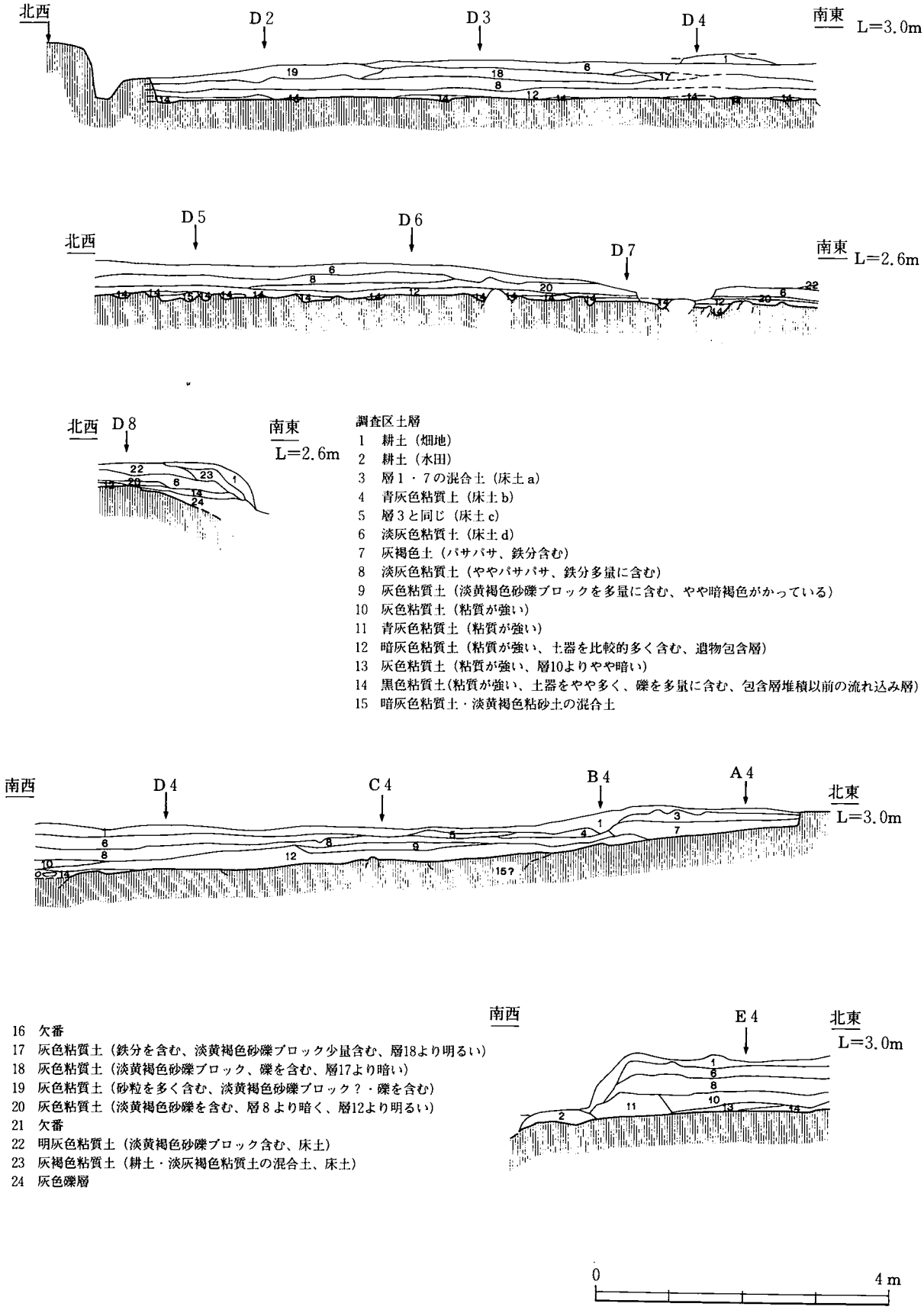
陶磁器（第7図27～30）　27は青磁。龍泉窯系で、製作時期は15世紀代。28～30は珠洲焼。28は甕、29・30は片口鉢。片口鉢は器形と卸し目条数・単位から、29を珠洲Ⅳ期、30を同Ⅲ期ごろに比定する。この他、図化できなかったが、青磁（劃花、鎬蓮弁、線描蓮弁）、白磁、瀬戸、近世陶磁器がある。

土錘（第7図31・32）　2点あり、どちらもちくわ形の管状土錘。31はほぼ完存し、32は孔に沿って半分に折れている。形態から中世後半期以降の土錘といえる。

その他遺物（第8図）　1は石鏃。2は石鏃として報告された類品がいくつかあるが、石錐の類の可能性もある。3～5は剥片。3・4は不整ながら石鏃に似た形状で、未製品の可能性がある。6は打製石斧、ばち形で主面の一方に自然面を残す。7は磨製石斧。扁平で、基部・刃部とも隅は丸みを持つ。8は石製品で、不整な四角錐形の石材の全面に鋭い刃物痕が数多く付く。平砥石を転用して刃物の刃つぶし等を行ったと推定する。9・10は木製品で、円盤状の板。9は薄く、曲物容器の底板の可能性が高い。10も容器の底と思われるが、腐食がひどく、詳しく知ることはできない。11・12は鉄製品。どちらも銹がひどいが、形態から11は鋤先、12は刀身の可能性がある。13～16は銭貨、詳細は第4表に示した。13は唐銭、15は北宋銭と確認され、14は13と同じく唐銭、16は無文銭の可能性がある。各銭貨は初鋳年に大きな時期差があるが、当地域で活発に流通する時期は中世後半期である。



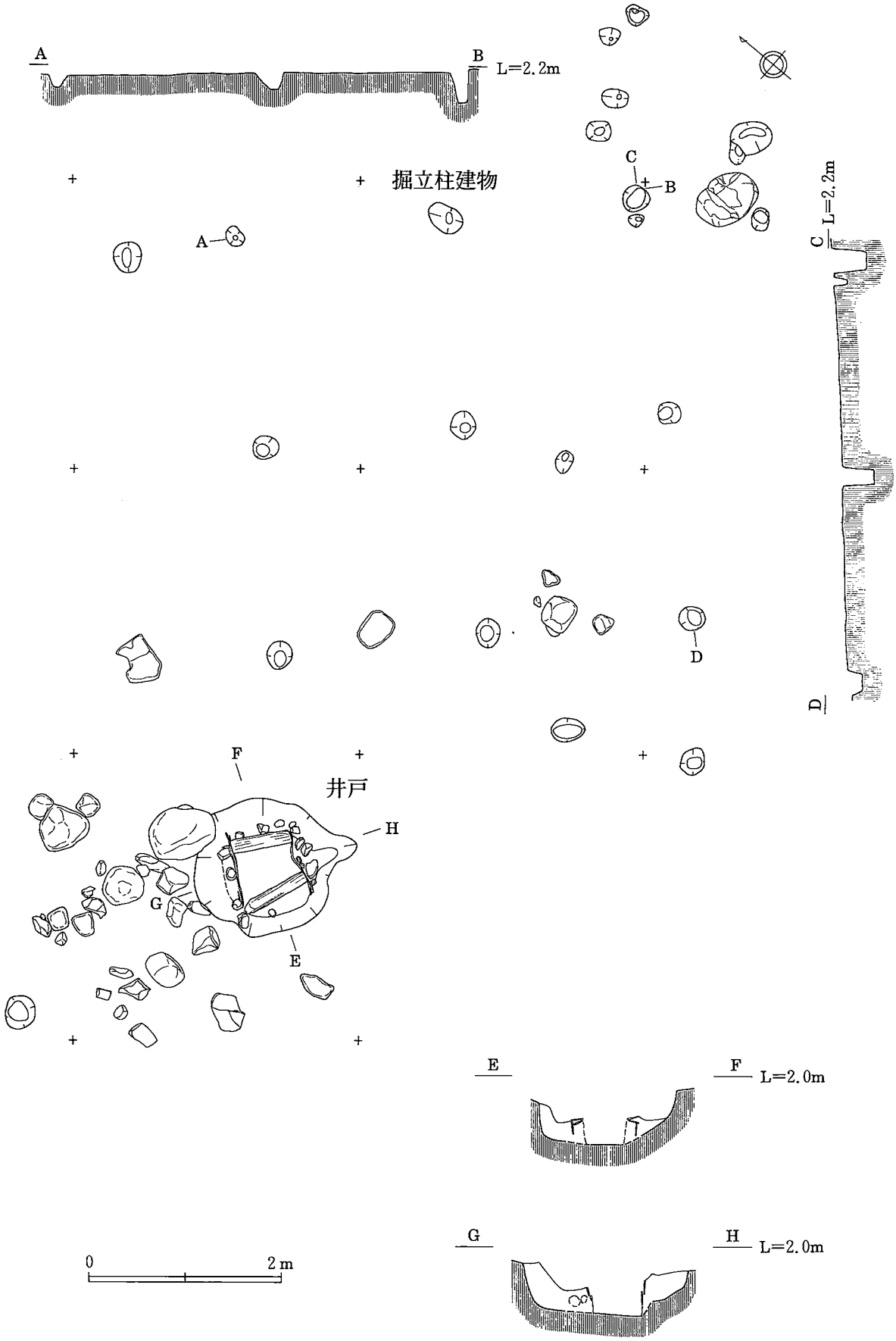
第３図　調査区全体図（S＝1/120）



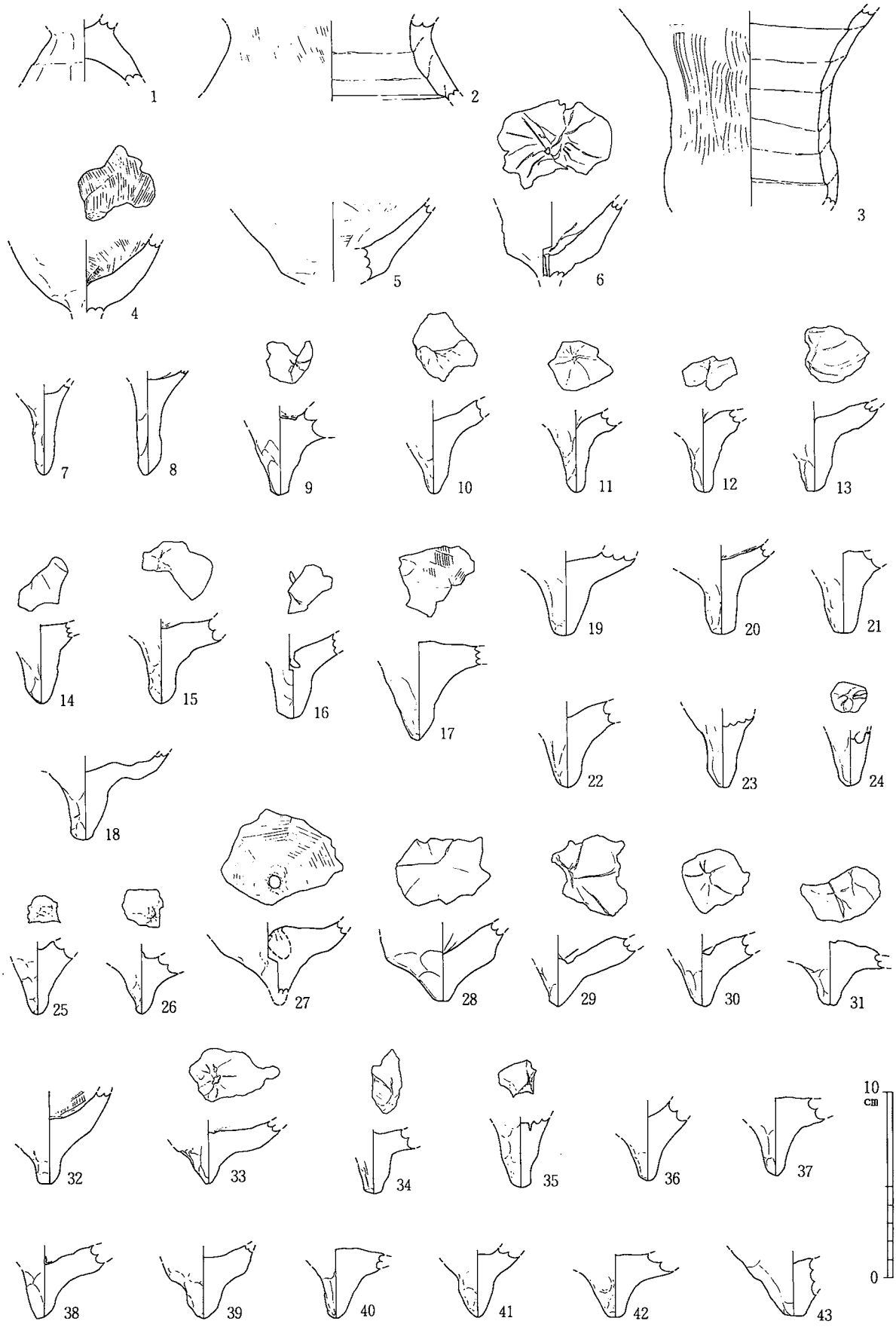
調査区土層

1　耕土（畑地）
2　耕土（水田）
3　層1・7の混合土（床土a）
4　青灰色粘質土（床土b）
5　層3と同じ（床土c）
6　淡灰色粘質土（床土d）
7　灰褐色土（パサパサ、鉄分含む）
8　淡灰色粘質土（ややパサパサ、鉄分多量に含む）
9　灰色粘質土（淡黄褐色砂礫ブロックを多量に含む、やや暗褐色がかっている）
10　灰色粘質土（粘質が強い）
11　青灰色粘質土（粘質が強い）
12　暗灰色粘質土（粘質が強い、土器を比較的多く含む、遺物包含層）
13　灰色粘質土（粘質が強い、層10よりやや暗い）
14　黒色粘質土(粘質が強い、土器をやや多く、礫を多量に含む、包含層堆積以前の流れ込み層)
15　暗灰色粘質土・淡黄褐色粘砂土の混合土
16　欠番
17　灰色粘質土（鉄分を含む、淡黄褐色砂礫ブロック少量含む、層18より明るい）
18　灰色粘質土（淡黄褐色砂礫ブロック、礫を含む、層17より暗い）
19　灰色粘質土（砂粒を多く含む、淡黄褐色砂礫ブロック？・礫を含む）
20　灰色粘質土（淡黄褐色砂礫を含む、層8より暗く、層12より明るい）
21　欠番
22　明灰色粘質土（淡黄褐色砂礫ブロック含む、床土）
23　灰褐色粘質土（耕土・淡灰褐色粘質土の混合土、床土）
24　灰色礫層

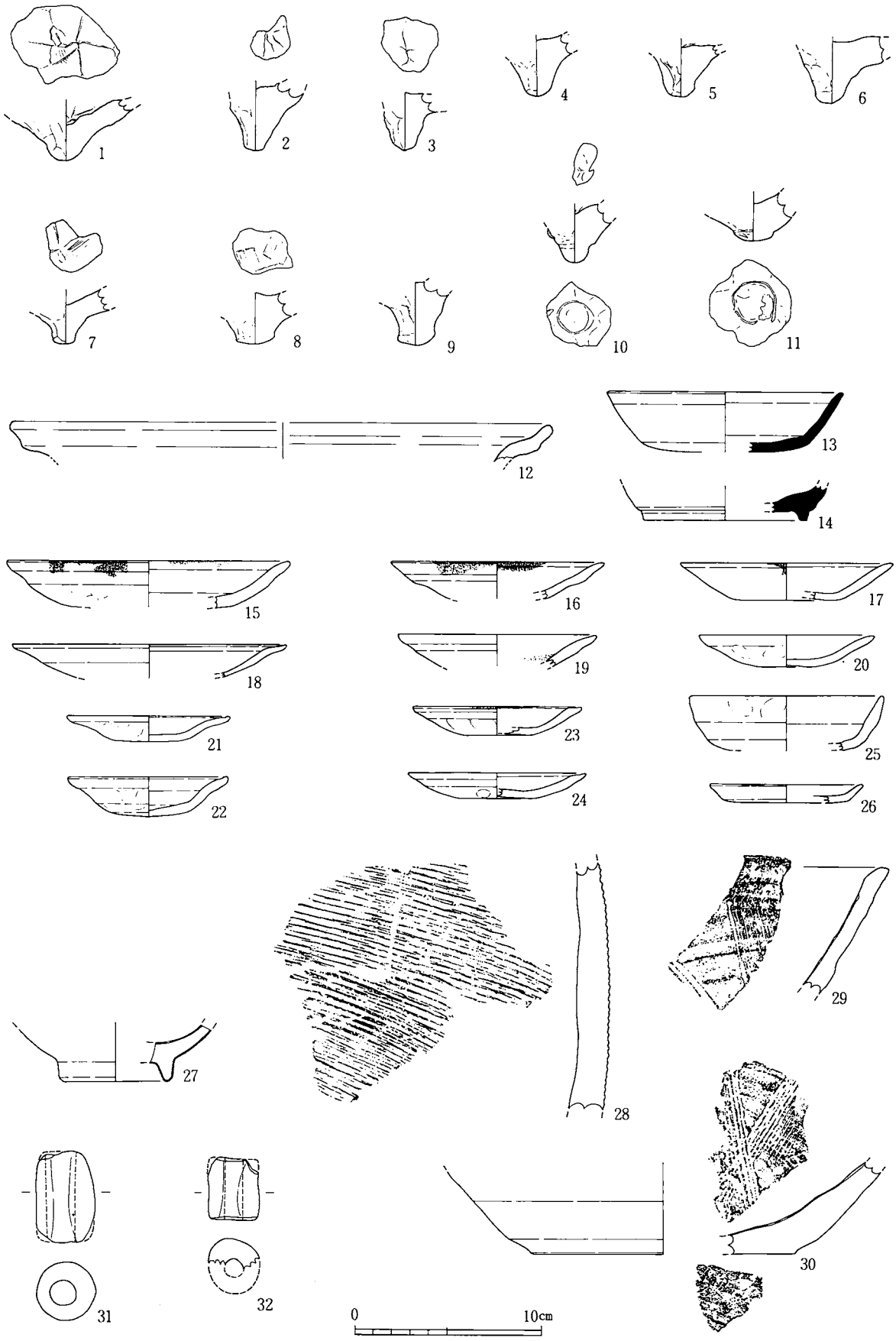
第4図　調査区土層断面図（S＝1/80）



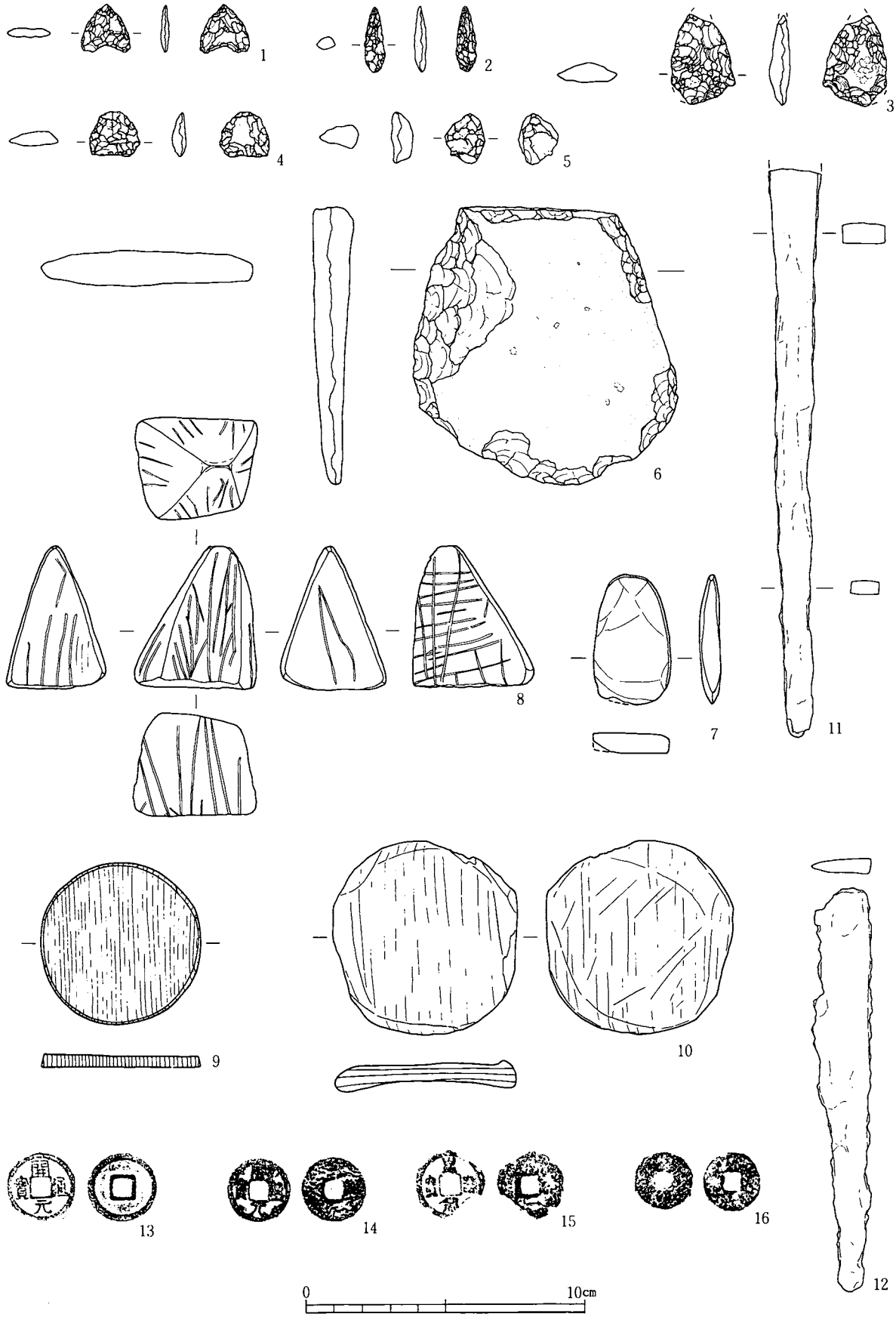
第5図　遺構実測図（S＝1/60）



第６図　遺物実測図１（S＝1/3）



第７図　遺物実測図２（S＝1/3）



第８図　遺物実測図３（S＝1/2）

第２表～第４表凡例

［ 図　№ ］左に挿図番号、右に挿図内の遺物番号を表示した。第１図１ならば「１－１」となる。

［出土位置］判明している限りのグリッド名を表示した。

［ 種　別 ］土製、石製、木製、鉄製といった大まかな遺物の種別を表示し、土製遺物については製塩土器、中世土師器、土製品など、より細かく表示した。

［ 器　種 ］文中で示した大まかな形態・機能分類に準拠した。

［ 調　整 ］第２表のみ記載した。内外面を大別して外面から示し「、」で区切り、口縁から底までの各部位は上位から示し「～」で区切った。同一部位での重複は「・」で区切り、施入の古い順に示した。

［ 色　調 ］第２表のみ記載した。色彩と名称は新版標準土色帳に準拠。内外面で異なる場合は外面から示した。器面本来の色調を重視し、被熱、付着物、黒斑等の色調は極力除いた。

［ 胎　土 ］第２表のみ、主として裸眼観察結果を記載した。粘土地に含有される砂礫の量を多・少の２段階で示した。その他特徴的な含有物については海綿骨片、雲母、焼土を示した。

［ 寸　法 ］第３表のみ記載した。実測図の縦方向をＬ（長さ）、横方向をＷ（幅）、奥行きをＤ（厚さ）として測定。単位はcmで読みとりは0.1cmまで。欠損品については現存値を（　）書きした。

［ 材　質 ］第３表のみ記載した。石材については小島和夫氏の裸眼・ルーペ使用の鑑定による。

［ 重　量 ］第３表の石器・石製品についてのみ記載した。単位はｇで読みとりは0.1gまで。欠損品については現存値を（　）書きしたが、剥片・石核についてはそのまま記載した。

［銭 貨 名］［ 書　体 ］［鋳造国・初鋳年（西暦）］［ 銭　径 ］［ 孔　径 ］第４表のみ記載した。芝田悟氏の鑑定による。銭径・孔径の単位はcmで読みとりは0.1cmまで。欠損品については現存値を（　）書きした。

［ 実測№ ］実測原図の整理番号。遺物にも注記されており、実物との照合の便を図った。

［ 備　考 ］上記の項目で表示できなかった内容で、特記すべきことについて記した。

第２表　土器・陶磁器・土製品観察表

図No.	出土位置	種　別	器種	調　整	色　調	胎　土	実測No.	備　考
6-1	E3区	製塩土器	倒盃	ナデ	外面橙、内面にぶい黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D32	
6-2	B1区・B2区	製塩土器	胴部	外面ハケ，内面ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D42	内面継ぎ目、被熱痕
6-3	不明	製塩土器	胴部	外面ハケ・ナデ、内面ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿	D11	内面継ぎ目
6-4	B4区・C4区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ	浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D41	内面しぼり痕
6-5	C3区・C4区	製塩土器	尖底	外面ナデ，内面ハケ・ナデ	外面にぶい橙、内面橙	砂礫多、海綿	D60	
6-6	D1区	製塩土器	尖底	ナデ	外面浅黄橙、内面黄橙	砂礫少、海綿、焼土	D66	内面しぼり痕
6-7	不明	製塩土器	尖底	ナデ	灰白	砂礫少	D43	被熱痕
6-8	C2区・D2区	製塩土器	尖底	ナデ	灰白	砂礫少、海綿	D71	被熱痕
6-9	B1区	製塩土器	尖底	ナデ	外面橙、内面にぶい橙	砂礫多、海綿、焼土	D51	内面しぼり痕、被熱痕
6-10	B2区	製塩土器	尖底	ナデ	外面灰白、内面浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D27	内面しぼり痕
6-11	B5区	製塩土器	尖底	ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D28	内面しぼり痕
6-12	D4区	製塩土器	尖底	ナデ	外面浅黄橙、内面黄橙	砂礫多、焼土	D31	内面しぼり痕
6-13	C1区・D1区	製塩土器	尖底	ナデ	外面浅黄橙、内面橙	砂礫多、海綿	D40	
6-14	不明	製塩土器	尖底	ナデ	にぶい橙	砂礫多、海綿、焼土	D58	被熱痕
6-15	B5区	製塩土器	尖底	ナデ	浅黄橙	砂礫少	D55	内面しぼり痕
6-16	B3区・B4区	製塩土器	尖底	ナデ	灰白	砂礫多、海綿、焼土	D56	内面孔、被熱痕
6-17	C2区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	橙	砂礫多、海綿、焼土	D72	
6-18	不明	製塩土器	尖底	ナデ	にぶい黄橙	砂礫多、雲母、海綿	D70	搬入品か
6-19	A4区	製塩土器	尖底	ナデ	淡黄～灰白	砂礫多	D61	外面しぼり痕
6-20	B2区・C2区	製塩土器	尖底	ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿	D63	
6-21	A2区・B2区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D25	外面黒斑
6-22	B2区	製塩土器	尖底	ナデ	淡黄	砂礫多、海綿	D57	
6-23	不明	製塩土器	尖底	ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D75	内外面しぼり痕
6-24	D5区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面不明	浅黄	砂礫多、焼土	D74	内面孔
6-25	D3区	製塩土器	尖底	ナデ	外面灰白、内面浅黄橙	砂礫多、海綿	D47	
6-26	E1区	製塩土器	尖底	ナデ	浅黄橙	砂礫多、焼土	D59	内面しぼり痕
6-27	B2区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ	浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D62	内面孔

図No.	出土位置	種　別	器種	調　整	色　調	胎　土	実測No.	備　考
6-28	A2区・B2区	製塩土器	尖底	ナデ	にぶい橙	砂礫多、海綿、焼土	D69	内面しぼり痕、被熱痕
6-29	D4区	製塩土器	尖底	ナデ	橙	砂礫多、海綿、焼土	D68	内面しぼり痕
6-30	E3区	製塩土器	尖底	ナデ	橙	砂礫多、海綿	D33	内面しぼり痕
6-31	A2区～B3区	製塩土器	尖底	ナデ	外面浅黄橙、内面黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D26	
6-32	D2区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	外面灰白、内面浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D65	
6-33	D1区	製塩土器	尖底	ナデ	浅黄橙	砂礫多、焼土	D67	内面しぼり痕
6-34	B1区	製塩土器	尖底	ナデ	外面にぶい赤褐、内面にぶい橙	砂礫多、海綿、焼土	D54	被熱痕
6-35	B1区・C1区	製塩土器	尖底	ナデ	淡黄～灰白	砂礫多	D39	内面しぼり痕
6-36	E3区	製塩土器	尖底	ナデ	外面橙、内面にぶい橙	砂礫多、海綿、焼土	D35	内面しぼり痕
6-37	D3区・E3区	製塩土器	尖底	ナデ	外面淡橙、内面橙	砂礫多、焼土	D30	
6-38	D5区・E5区	製塩土器	尖底	ナデ	外面橙、内面にぶい橙	砂礫多、海綿、焼土	D45	
6-39	E3区	製塩土器	尖底	ナデ	にぶい橙	砂礫多、海綿	D34	被熱痕
6-40	D2区・D3区	製塩土器	尖底	ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿	D48	
6-41	D1区	製塩土器	尖底	ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿	D49	被熱痕
6-42	C6区	製塩土器	尖底	ナデ	明橙褐	砂礫多、海綿、焼土	D64	
6-43	B1区・C1区	製塩土器	尖底	ナデ	灰白	砂礫多、海綿	D38	
7-1	D2区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	外面にぶい橙、内面橙	砂礫多、海綿	D29	内面しぼり痕
7-2	D1区・D2区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面不明	外面にぶい橙、内面浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D50	内面しぼり痕
7-3	不明	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面不明	外面橙、内面淡橙	砂礫多、海綿、焼土	D46	内面しぼり痕、被熱痕
7-4	A2区・B2区	製塩土器	尖底	ナデ	外灰白、内面浅黄橙	砂礫多、焼土	D36	外面に工具痕
7-5	A2区～C3区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面不明	にぶい橙	砂礫多、海綿	D37	
7-6	D3区・E3区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	淡黄	砂礫多、海綿	D44	
7-7	不明	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	外面灰、内面浅黄橙	砂礫少、海綿	D73	被熱痕
7-8	A6区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D23	
7-9	B1区～D1区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面不明	浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D24	
7-10	B3区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	浅黄橙	砂礫少、海綿、焼土	D53	脚部に沈線状えぐり
7-11	B4区	製塩土器	尖底	外面ナデ、内面ハケ・ナデ	外面橙、内面浅黄橙	砂礫多、海綿、焼土	D52	脚部に沈線状えぐり
7-12	B2区	土師器	鍋か	ロクロナデ	にぶい黄橙	砂礫多、雲母	D10	
7-13	E5区	須恵器	無台杯	ロクロナデ	明灰	砂礫少	D16	羽咋北部産か
7-14	D1区	須恵器	有台杯	ロクロナデ	灰	砂礫少	D17	鳥屋産か
7-15	A6区	中世土師器	皿	外面ヨコナデ～ナデ、内面ヨコナデ	外面にぶい黄橙、内面橙	砂礫少、雲母、海綿	D1	油煙痕
7-16	不明	中世土師器	皿	ヨコナデ	にぶい黄橙	砂礫少、雲母、海綿	D13	油煙痕
7-17	C5区・C6区	中世土師器	皿	外面ヨコナデ～ナデ、内面ヨコナデ	赤橙	砂礫少、海綿	D6	油煙痕
7-18	C3区	中世土師器	皿	ヨコナデ	にぶい橙	砂礫少、海綿	D7	
7-19	B2区	中世土師器	皿	外面ヨコナデ～ナデ、内面ヨコナデ	にぶい橙	砂礫少、雲母、海綿	D3	油煙痕
7-20	C5区	中世土師器	皿	ヨコナデ～ナデ	淡黄	砂礫少、海綿	D21	
7-21	B4区・B5区	中世土師器	皿	ヨコナデ～ナデ	にぶい橙	砂礫少、海綿	D2	
7-22	排土	中世土師器	皿	ヨコナデ～ナデ	灰白	砂礫ごく少、雲母、海綿	D20	
7-23	D1区	中世土師器	皿	ヨコナデ～ナデ	にぶい黄橙	砂礫少、海綿	D9	油煙痕
7-24	D2区・E2区	中世土師器	皿	ヨコナデ	淡黄	砂礫少、海綿	D12	
7-25	D4区・C5区	中世土師器	皿	外面ヨコナデ～ナデ、内面ヨコナデ	淡黄	砂礫ごく少、海綿	D8	被熱か
7-26	排土	中世土師器	皿	外面ヨコナデ～ナデ、内面ナデ	外面浅黄橙、内面灰白	砂礫ごくごく少	D19	油煙痕、漆状被膜
7-27	B1区・B2区	青磁	碗	施釉・貫入・外面底のみ無釉	釉オリーブ灰、地灰白		D18	龍泉窯系
7-28	B3区	珠洲焼	甕	外面平行タタキ、内面オサエ・ナデ	暗灰	砂礫少、海綿	D15	
7-29	B7区～B9区	珠洲焼	片口鉢	ロクロナデ	灰	砂礫少、海綿	D22	内面卸し目
7-30	排土	珠洲焼	片口鉢	外面ロクロナデ～静止糸切り、内面ロクロナデ	灰	砂礫少、海綿	D14	内面卸し目
7-31	B7区	土製品	土錘	外面ナデ、内面不明	浅黄橙	砂礫少、雲母	D4	重量38.5 g
7-32	B7区	土製品	土錘	外面ナデ、内面不明	外面灰白、内面黒褐	砂礫少、海綿	D5	重量15.4 g、内面は黒斑

第3表　石・木・鉄製遺物観察表

図No.	出土位置	種　別	器　種	寸法（L×W×Dcm）	重量（g）	材　質	実測No.	備　考
8-1	C5区・C6区	石製	石鏃	1.7×1.8×0.3	0.7	安山岩	石31	凹基鏃
8-2	C7区	石製	石錐か	2.4×0.8×0.6	0.7	安山岩	石32	
8-3	B2区・C2区	石製	剥片	3.3×2.3×0.3	48.4	メノウ	石30	石鏃等の未製品か
8-4	B3区	石製	剥片	1.6×1.8×0.5	1.4	安山岩	石41	石鏃等の未製品か
8-5	E6区	石製	剥片	1.8×1.4×0.8	2.0	鉄石英	石40	
8-6	排土	石製	打製石斧	(10.1)×9.6×1.5	(160.4)	安山岩	石34	基部欠損
8-7	不明	石製	磨製石斧	4.7×2.7×0.7	16.6	流紋岩	石35	
8-8	A2区・B2区	石製	砥石か	5.2×4.5×3.8	83.6	凝灰岩	石33	刃物痕、転用品か
8-9	B2区・B3区	木製	底板	5.8×5.8×0.5		針葉樹	木37	
8-10	D2区・E2区	木製	底板か	7.1×6.7×1.1		不明	木38	腐朽著しい
8-11	C7区	鉄製	鋤先か	20.9×1.9×0.9		鉄	金39	錆著しい
8-12	E3区	鉄製	刀身か	14.8×2.2×0.6		鉄	金36	錆著しい

第4表　銭貨観察表（芝田悟作成）

図No.	出土位置	銭貨名	書　体	鋳造国・初鋳年（西暦）	銭径（cm）	孔径（cm）	重量（g）	実測No.	備　考
8-13	C2区	開通元寶	隷書	唐・武德4年（621）	2.5	0.7	3.7	石29	鋳上がり、遺存良好
8-14	C6区	□□元寶	隷書	不明	2.3	0.7	3.0	石26	摩滅著しい、開通元寶か
8-15	B3区	皇宋通寶	篆書	北宋・寶元2年（1039）	2.5	0.6	(1.6)	石28	欠損2箇所あり、脆弱
8-16	C1区	不明	不明	不明	2.1	0.6	1.3	石27	青銅、無文銭か

Ⅳ　まとめ

中島フジノキ製塩遺跡の発掘調査は、短期間・小面積であったが、結果として、縄文時代から中世に及ぶ様々な時代の人々の活動を窺うことができた。時代別に概観してまとめとしたい。

縄文時代

遺構は検出できていないが、縄文土器、石器が出土している。縄文土器には後期の土器が確認されており、現状では本遺跡の最も古い段階の遺物である。

弥生・古墳時代

遺構は検出できていないが、古墳時代の製塩土器が少量出土している。また、隣接する中島フジノキ遺跡（県遺跡番号33076）では弥生時代中後期の土器、大型の倒盃タイプ製塩土器が採集されている（加賀・米沢1985、戸澗1995）。弥生土器との共伴関係が不明なため、詳細な時期を知ることはできないが、この段階で確実に土器製塩が行われていることを示す遺物である。

古代

遺構は明確でないが、大量の製塩土器と、少量ながら土師器、須恵器が出土しており、土器製塩の盛行する時期である。調査当時は尖底タイプの製塩土器は古墳時代後期頃のものと推定されたが、本書が刊行されるまでの間に製塩遺跡の調査・研究が大きく進展した（橋本・戸澗1994、中島町1995等）ことによって、８～９世紀代の年代観を与えることが可能になり、非常に興味深い資料となった。製塩炉は削平された可能性が高く、出土した焼石はこの時期に伴うものと思われる。

中世

検出された遺構の大半はこの段階に属すると推定される。出土した中世土師器、陶磁器に見る限り、13～15世紀代の時期が想定されるが、油煙痕の頻度が高い中世土師器が顕著な15世紀後半代と、珠洲、青磁等日常雑器が見られるそれ以前とでは、遺跡の性格が変化している可能性が高い。

なお、現地でのほ場整備の面工事終了後、今回の調査区以外の地点からも、縄文時代から中世にかけての遺物が出土していることが判明した。おそらくはこの谷に広範囲に広がる中島フジノキ遺跡に連なっていくような分布状況と推定される。低地と山地に挟まれる緩傾斜地を巧みに利用して暮らし続けた当時の人々の姿が窺われよう。

参考文献

石川県教育委員会『石川県遺跡地図』1992年
石川県立埋蔵文化財センター『昭和59年度県営ほ場整備事業・県営公害防除特別土地改良事業関係埋蔵文化財調査概要』1984年
加賀実・米沢義光「中島町地内採集の弥生土器・製塩土器について」『石川考古』第159号　石川考古学研究会　1985年
戸澗幹夫「第二編　考古　第五章　土器製塩」『中島町史』資料編上巻　中島町史編纂専門委員会　1995年
中島町教育委員会『ヤトン谷内遺跡』1995年
橋本澄夫「第９章第４節　土器製塩遺跡」『石川県能都町真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団　1986年
橋本澄夫・戸澗幹夫「Ⅳ－６　石川県」『日本土器製塩研究』青木書店　1994年
北陸古代土器研究会『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』資料編　1988年
北陸中世土器研究会『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』1992年

写　　真

写真１　調査前（南から）

写真２　完掘状況（南から）

写真３　完掘状況（北西から）

写真４　完掘状況（東から）

写真５　完掘状況（西から）

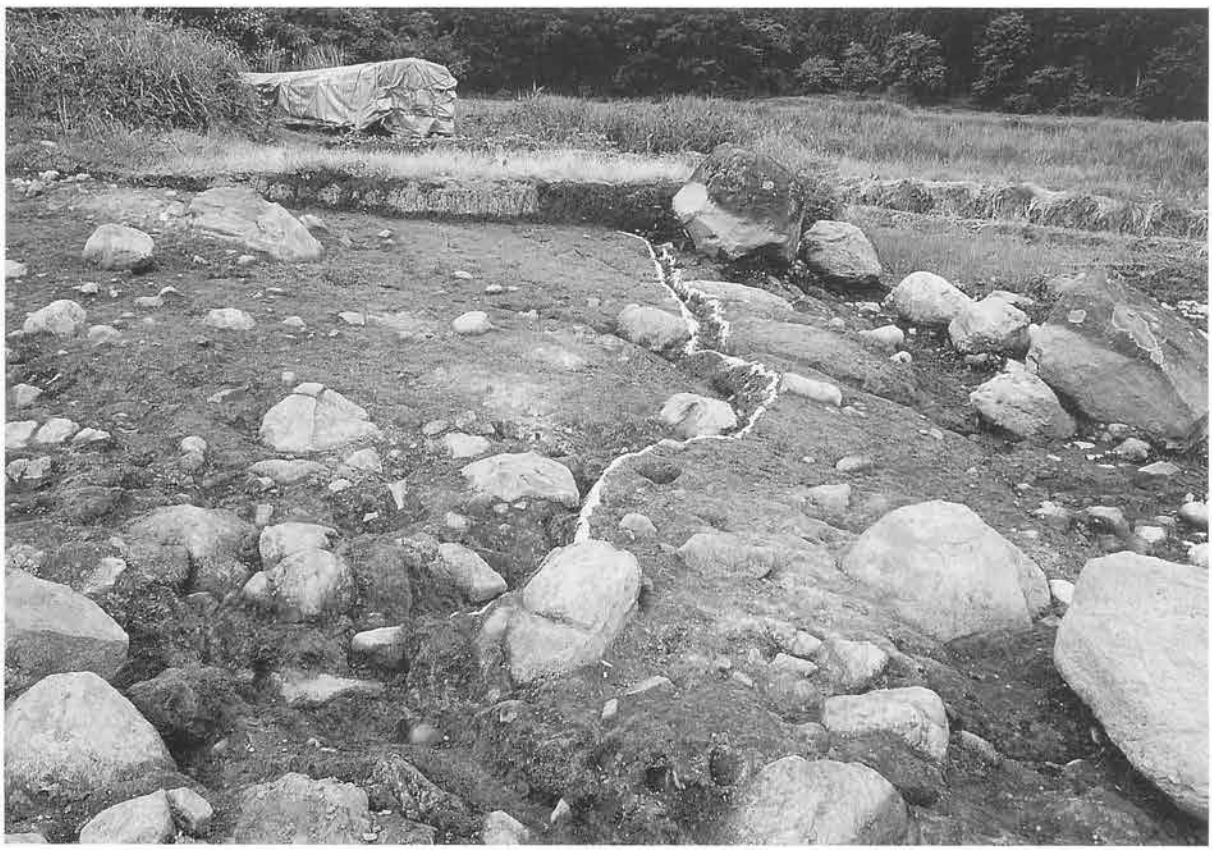


写真６　溝状遺構（南から）

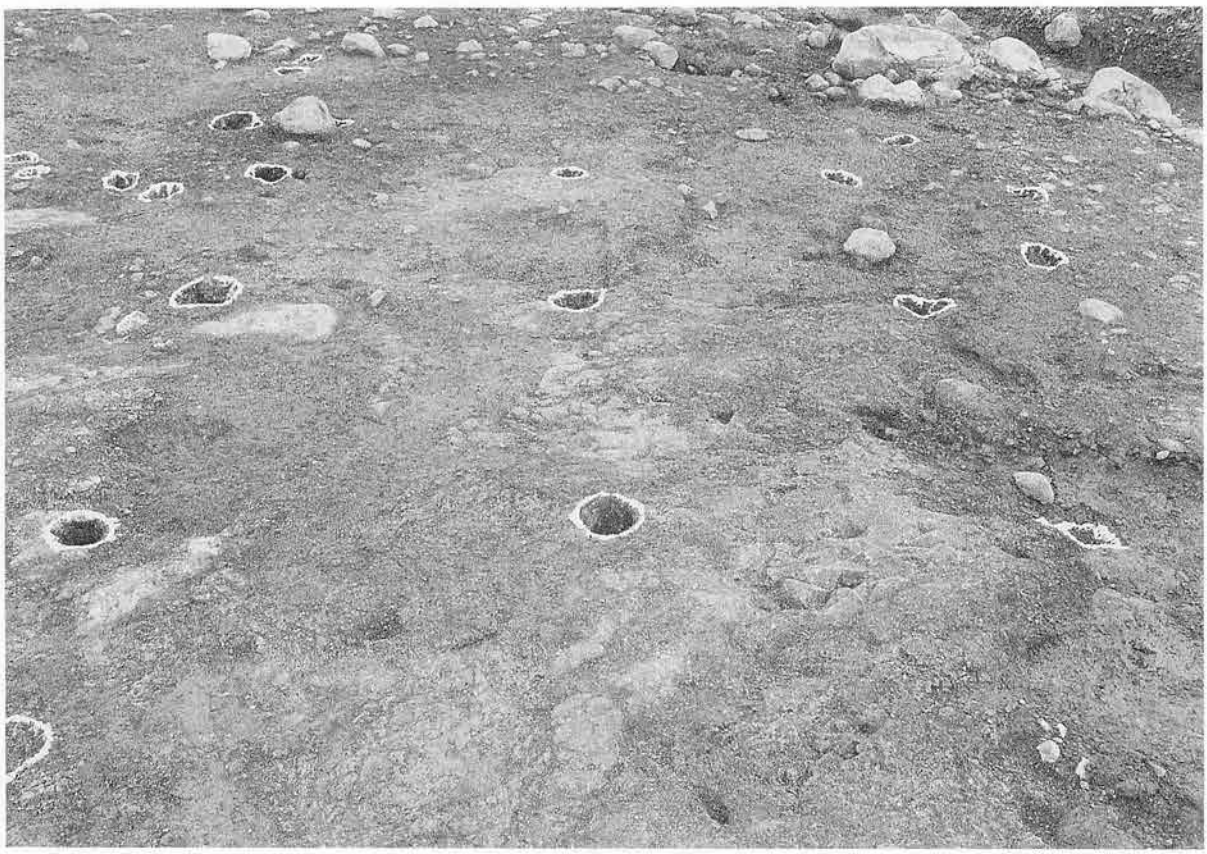


写真７　掘立柱建物（西から）

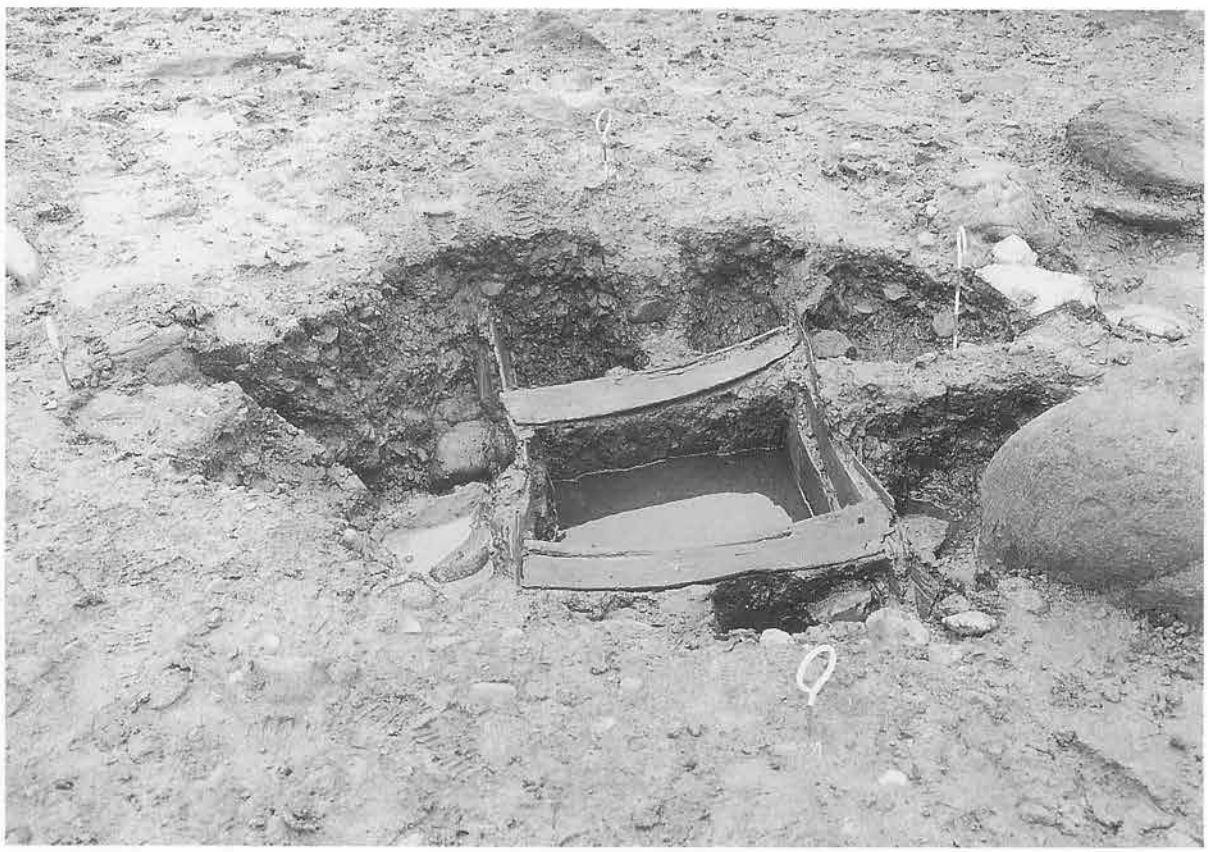


写真８　井戸（北から）

写真９　表土除去

写真10　作業風景１

写真11　作業風景２

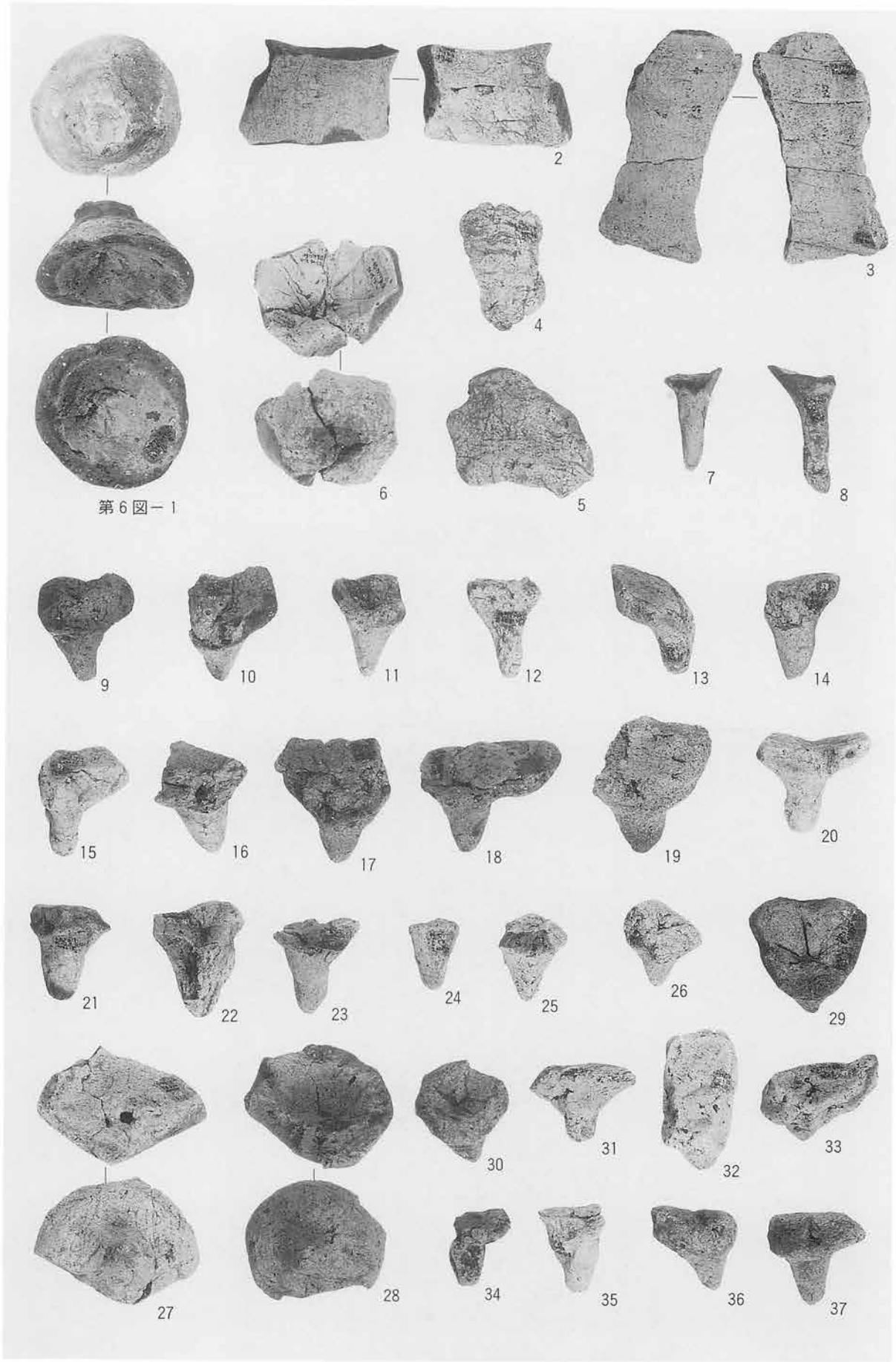

2
3
4
6
5
7
8
第6図－1
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
29
30
31
32
33
27
28
34
35
36
37

写真12　遺物1

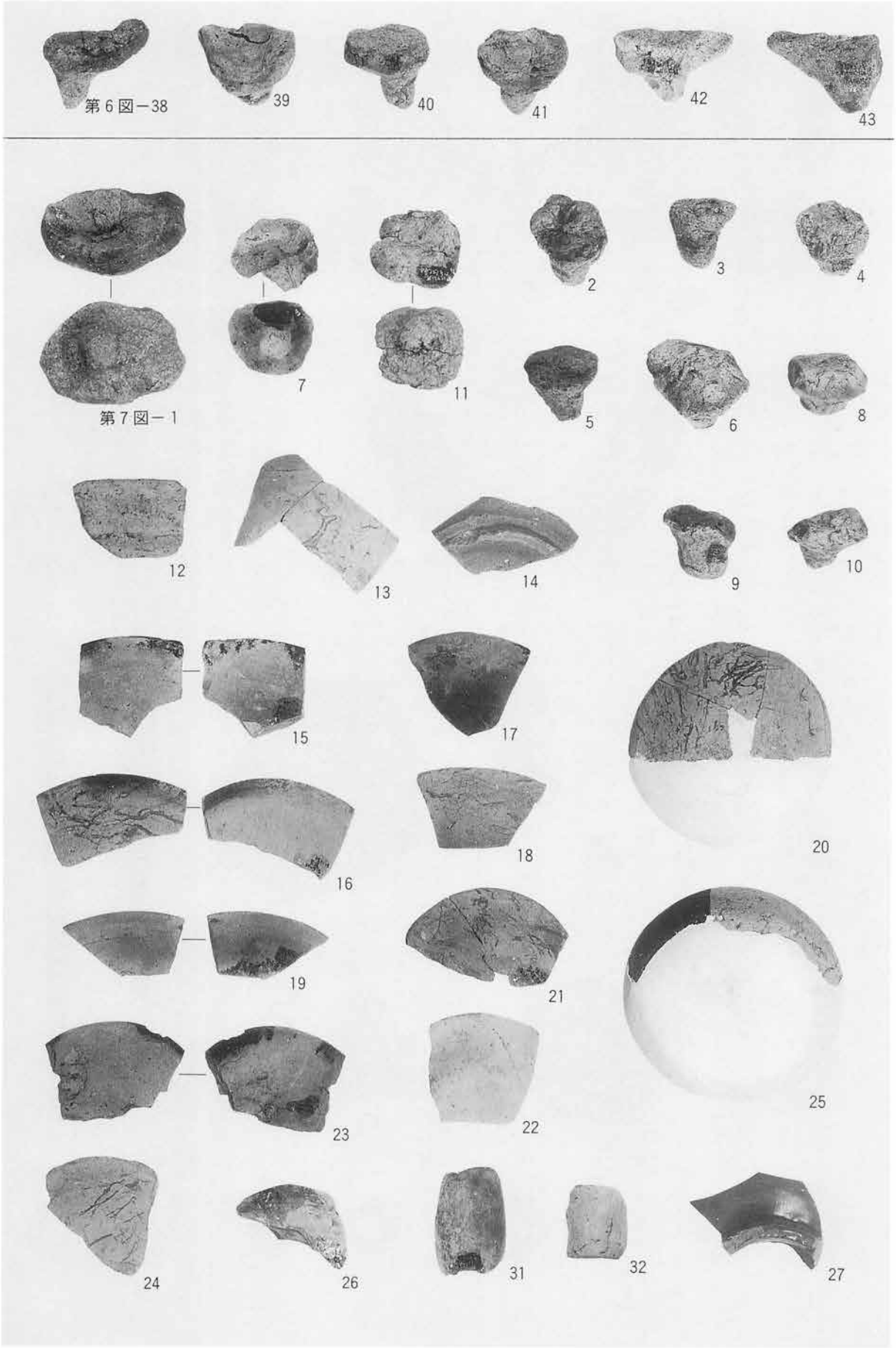

第6図－38
39
40
41
42
43
1
7
11
2
3
4
第7図－1
5
6
8
12
13
14
9
10
15
17
20
16
18
19
21
25
23
22
24
26
31
32
27

写真13　遺物2

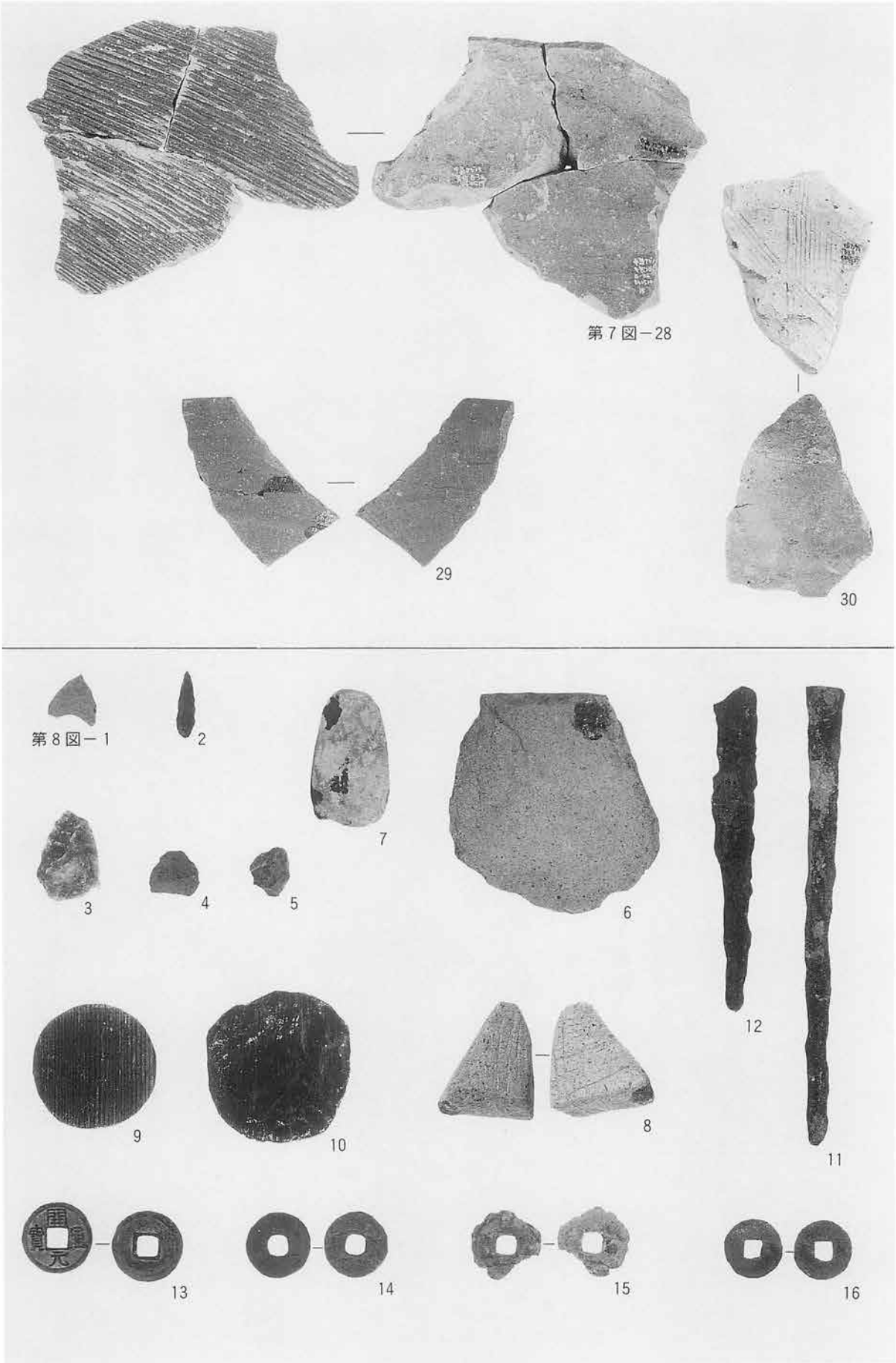


写真14　遺物３

中島町中島フジノキ製塩遺跡

— 県営ほ場整備事業中島地区に
係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

用紙コート135kg

平成９年　３　月　25　日　印刷
平成９年　３　月　28　日　発行

編集・発行　石川県立埋蔵文化財センター
石川県金沢市米泉町４丁目133番地
〒921　電話（0762）43－7692番

印　　刷　株式会社栄光プリント